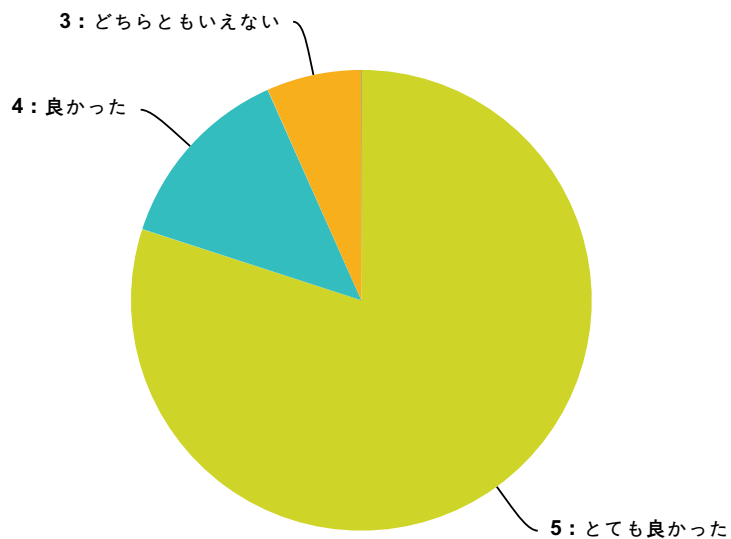


H27 マヒドン大学短期語学留学 評価・報告

参加者15名、回答数15名

Q1 プログラム全体を下記の選択肢をつかって評価してください。



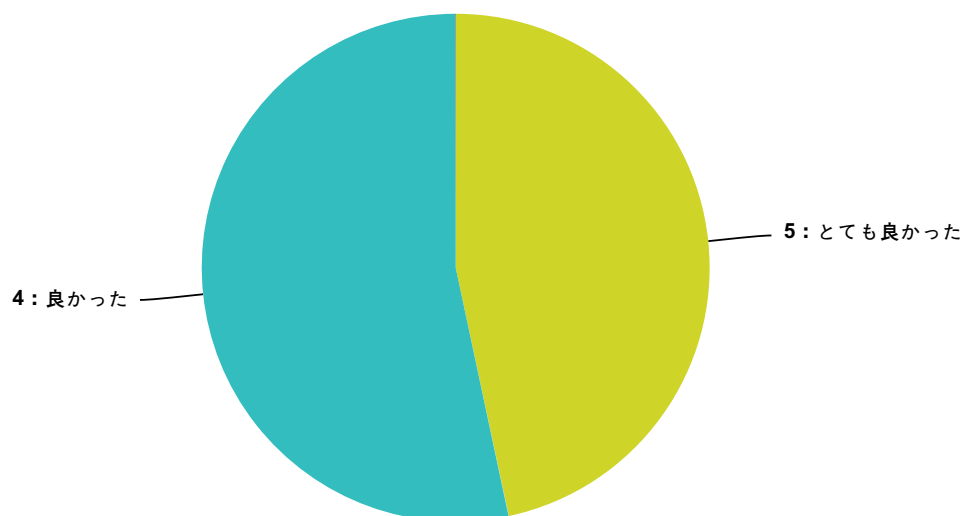
回答の選択肢	割合	回答数
5: とても良かった	80.00%	12
4: 良かった	13.33%	2
3: どちらともいえない	6.67%	1
2: 良くなかった	0.00%	0
1: 全く良くなかった	0.00%	0
合計		15

Q2 プログラム全体に関して、感想を聞かせてください

	回答内容
1	爆弾事件のおかげでバンコクへは入れず、プログラムの内容が薄くなってしまったことは否定できません。しかしその分タイの学生が私たちがなんとかキャンパス周辺で楽しませてくれようとする土日のプランを考えてくれ、タイの学生のやさしさに触れることができました。行ってよかったです。
2	今回はプログラムでタイに行く直前にバンコクで爆弾事件があり、バンコクやアユタヤなど主要観光地へ行くことができなくなってしまったが、それでも十分に楽しめた。まず、日本でのタイの学生の受け入れであるが、これは去年の先輩の協力もあり、福岡の主要な観光地へは行けたと思う。福岡での交流の段階で大分仲良くなることができ、タイへ行くことが楽しみになった。タイでの生活は毎日非常に充実していた。相部屋での寮生活は2週間程度であれば、まったくストレスにならなかった。むしろ、ほぼ毎日友達という話することができて楽しかった。タイ人は本当に親切で毎日面倒を見てくれた。タイ語の授業もちゃんと聞いていれば特に難しいものではないと思う。ただいかにせん、疲れから眠くなるが多かった。フィールドトリップに関しては、個人的にKlong Mahasawatというところへ行ったのが面白かった。いろいろなところで旅をするのであるが、ハスの花が美しいところで写真を撮ったり、手作りのお菓子を作るのを手伝ったり、食べたり、トラクターに乗って田舎道を移動したり、なかなかできない体験をたくさんできたと思う。あとはバンコク、アユタヤに行きたかった。このプログラムでは交流を通じて良き友人ができることが個人旅行との最大の違いだと思う。このプログラムに参加して本当に良かったと思う。
3	タイ語は発音が難しかったけど、講師の方々の説明がわかりやすく、また習ったことをすぐ現地のお店や友達と会話することで実践し、身につけていくことが出来たので効率よく学ぶことが出来ました。所々、時間配分など改善したほうが良いと思う点はありませんでしたが、全体的に満足いくプログラムでした。タイの人々はとても親切で優しくサポートしてくださり、生活面において困ることはほぼなかったです。
4	今年はバンコクで爆発事件が起こったため、大学周辺にしか行けなかったことは残念であった。しかし、日本やタイで一か月を通してマヒドン大学の学生と交流した経験はかけがえのないものとなり、非常に密度の高い1か月を過ごせたと思う。日本に帰国してからも、タイで過ごした記憶は過去のものとして過ぎ去るのではなく、常に傍らにあるものになった。慕わしいタイの友人に会うために、再びタイに訪れたいと思う。個人的にはもっと英語を勉強してからプログラムに参加するべきだったと反省した。日本人が富士山をどう考えているのか、水炊きはこういう料理なんだ、と詳しく説明したかったし、なによりタイの友人と英語で気兼ねなく長話したかった。言葉が足りないために、マヒドン大学の学生に迷惑をかけることも多かった。このプログラムはタイ語を学ぶことが大きな割合を占めていたが、結局は日本語交じりの英語で会話していたので、自分で事前に勉強しておくべきだったと思う。振り返ってみて思い出すのは、どこへ行ったか、何をしたのかではなく、誰と過ごし、何を語り合ったのかということばかりだ。旅先で楽しくなって人にちょっかいをかけたり、すぐに飽きたり、自分で考えずに質問したりと傍若無人な振る舞いばかりしていた私だが、タイの友人や同じ日本人には心の底から感謝している。タイの友人には大変な迷惑をかけたが、いやな顔もせずに私たちを楽しませようとしてくれた。日本人にはよくダメ出しをされた。このプログラムは終わったが、これからもみんなと交流を続けていきたい。
5	事前のタイ語の授業やチューターとしての交流、現地での2週間の生活と非常に充実したプログラムだった。バンコクに行けなかったのは残念だったが、それがあまり気にならないぐらいだった。逆に行けなかったことでタイの現地の生活に寄り添うことができたのではないかと感じている。また、日本の学生とタイの学生がお互いにサポートしあうことで、お互いの国についてより深く学ぶことができ、交流も深めることができたと思う。
6	私はこのプログラムに参加して、ほんとうによかったと感じています。タイ語の授業は、細かい発音から、本当に日常生活で使う単語や表現ばかりを学ぶことができたため、授業が終わった休み時間に、タイ人の学生との会話で、「さっき習った表現が使える!」となることも多かったです。また、マヒドン大学の学生だけでなく、行った先々で、日本人だと分かると喋りかけてくれる人が多く、その人達もタイ語を教えてくれたりしました。本当に優しい人の多い国だと思います。また、今回のプログラムではバンコクでの爆発テロがあったせいで、バンコクの有名な寺院や施設にはいくことができませんでしたが、その分連れて行ってもらった場所は、普通に旅行していたらいくことができないような場所ばかりで(マヒドン大学の学生も行ったことがないと言う場所が多かったです)、観光客のために飾られていない素のままのタイの姿を見ることができたのではないかと感じました。また、かならずもう一回行く!という気持ちにもなることができました。毎日何かしらの授業や体験、見学があり、一日一日が終わると、本当にくたびれてすぐ寝てしまうくらい過密なスケジュールでしたが、本当に充実していて、楽しかったです。
7	タイ語の授業はとてもわかりやすかったです。学習したことが実際に役に立つ場面もあってよかったです。今回バンコクに行けずに少し残念ではあったのですが、いろんなところにつれていってもらい、それぞれ楽しかったです。自分たちが訪れる場所について事前に調べて予備知識を持っていけばもっと勉強になったのではと思います。

8	<p>実際にタイに行ったのは2週間であったが、その前にタイの学生が日本に来ていることによって、4週間関わることができた。私は、国際交流をたくさんしたいと思っていたので、このプログラムは費用も高くなく、たくさん交流できるという面で素晴らしいものであった。タイでの生活も2週間という長さが、もっといろんな場所に行きたかったという感情が生まれることもなく、飽きもせずというちょうど良い長さであった。</p>
9	<p>初めてタイに行って、事前の説明会などで海外の危険性について話を聞かされていたため参加前には少し不安があったが、タイの学生や先生方が細かなことに対してもきちんと対処してくれ、とても快適な海外生活だった。語学学習についても、タイ語を勉強して即実践できるというすばらしい環境で勉強できたため、非常に意欲的に取り組むことができた。実際に買い物などでタイ語を遣ってみて相手がちゃんと理解してくれた時は感動した。マヒドン大学の学生は私たちに非常に親切にしてくれて、様々な交流ができた。博物館や寺院、市場などたくさんの場所を訪れることができ、タイについて様々な面から知ることができた。ただ、男女の差やチューター活動の参加の有無によっていろいろと交流の差が出ていたように思う。（私が努力すればいいだけのことだったのかもしれないが）</p>
10	<p>プログラム中のバンコクの治安が悪かったために、バンコクに行くことができなかったが、その代わりにキャンパスのあるサラヤ周辺をチューターまたはチューター以外の学生と巡ることができた。授業については基本的に毎日三時間あり大変だったのひとことにすぎるが、タイ語もほどよく勉強できたとし、タイでの生活リズムも安定していた。時間的にはいつも追い込まれるような課題等が多かった点も、自分でしっかり考える時間の確保であったり、タイ人の友達とコミュニケーションをとる良い機会であったりに繋がった。</p>
11	<p>タイでのスタディトリップやマヒドン生との交流、タイ語の勉強のすべてが充実していた。また、タイに行くまでの2週間、日本でマヒドン生と交流をして日本を案内する立場に立った時も、とても学ぶことが多く充実していた。それらの中で特に印象深いと感じたことは文化の違いと人の温かさだ。日本での交流の中では商品の特徴や道案内、料理の注文一つとっても説明が難しく、とても苦労した。また、タイ人と日本人との感覚の違いが顕著に表れたのは食事の時だった。普段私たちが食べているものをタイ人は酸味が強いや塩気が強いと言っていたのだ。これまで日本食をそのように捉えてこなかった私はその感覚に驚きを感じた。タイに行ってからは人の温かさに触れる機会が多かった。この交換プログラムに参加しているマヒドン生だけでなく、彼らの友達や同じ学部のマヒドン生まで私たちが歓迎してくれ、手厚くサポートしてくれた。その積極的な姿勢に感動さえ覚えた。さらに、私たちが知らなかったタイ特有の文化や風習、料理まで事細かに説明してくれたおかげで、タイをより深く楽しむことができた。全体の活動の中で異なる文化を理解する難しさと大切さを学ぶことができた。私が充実した一か月間を送ることができたのはマヒドン生、行動を共にした九大生、そしてプログラムに携わって下さった関係者の皆さんのお蔭だと思う。この約一か月間で得た友達と経験は一生忘れないものになった。</p>
12	<p>このプログラムの最大の意義は学生間の相互交流にあると思う。マヒドンの学生がこちらに来た2週間と私たちがタイで過ごした2週間の合わせて1か月にわたる交流を通じてかけがえのない友達がたくさんできた。言語については、私たちはタイ語を、マヒドンの学生は日本語を学ぶという内容であったが、タイの学生たちの積極的に日本語を使おうとしている姿を見て、自分もしっかりタイ語を学んで使っていくという良いモチベーションになった。また、タイの文化について学ぶこともこのプログラムの目的のひとつであったが、タイの文化については授業や日常生活の中で存分に感じることができ、それと同時に日本の文化について考え直すきっかけになった。学生たちと仲良くなった分、文化の違いについて語り合うという普通に外国に行くだけではなかなかできないような経験もできてよかったと思う。毎年のプログラムとは異なりバンコクに行けないということもあって、はじめは不安なこともあったが、振り返ってみると楽しい思い出いっぱい本当に良いプログラムになったと思う。今回できた素晴らしい関係を今後も維持して、またタイを訪れたいと強く思う。</p>
13	<p>マヒドン生の出迎えも含めた約一か月間のプログラムは想像を超えた充実ぶりでした。約2週間の短期留学期間ではさまざまなトラブルや発見などがあり、たくさんの経験ができました。そして、たくさんの異文化に触れることができました。食事も自分にとってはびっくりでした。このプログラムの良いところは、比較的少人数の留学であり、マヒドン生との交流がかなり密であることです。滞在中は毎日マヒドン生と会い、共にご飯を食べたり、お寺に行ったり、遊びに行ったりと、とても親密な仲になりました。タイという国の優しさ、微笑みの素晴らしさ、伝統と文化など、今やもう日本とタイとの心の距離はこれまでよりずっと近くなっています。またタイに行きたい、マヒドン生に会いたい、と心の底から思いました。このプログラムに参加して本当に良かったです。このプログラムに関わる全ての方に感謝申し上げます。</p>
14	<p>とても充実した二週間だった。タイ語やタイ文化を学ぶだけでなく、タイの学生と交流する機会が多く与えられていたことが良かったと思う。自分と同世代の外国人学生と親しくなることで、自分自身の将来や勉強に対する姿勢を考え直すきっかけになり、普通の旅行ではできない貴重な経験ができた。</p>
15	<p>今回のプログラムはタイの言葉や文化・歴史を実際に肌身に触れて勉強したり、マヒドン大学の人々との親密な交流ができた点で充実したプログラムであったと思う。タイ・マヒドン大学の人との交流は日本にいた時も含め4週間に及んだが、その間に異なる文化・言語を持つ人とのコミュニケーションの仕方やその上で持つべき寛容の心を得ることができたと思う。今年度はバンコクで8月17日に起きたテロ事件でバンコク市内への観光の中止・変更があったが、その分普通の観光では行くことのないであろうスポットに行き、タイの人のありのままの生活に直接触れるなど貴重な体験ができたと思う。今回のプログラムには満足している。機会があればまた当プログラムに参加したり、もしくはチューターとしてプログラムを支援したいと考えている。</p>

Q3 タイ語の授業について、下記の選択肢をつかって評価してください。



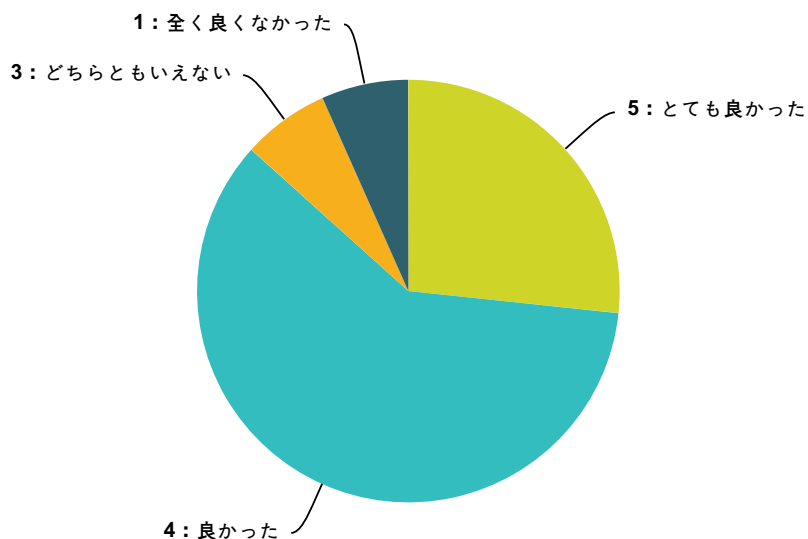
回答の選択肢		回答数
5:とても良かった	46.67%	7
4:良かった	53.33%	8
3:どちらともいえない	0.00%	0
2:良くなかった	0.00%	0
1:全く良くなかった	0.00%	0
合計		15

Q4 タイ語の授業全体に関して、感想を聞かせてください。

	回答内容
1	二人の先生は日本語がとてもうまい先生で内容理解がスムーズにいったと思います。毎日テストがあったのですこし厳しかったですが、おわってみると楽しかった思い出です。
2	3週間のタイ語の学習を通してかなりタイ語が身に付きました。そしてそのタイ語を店員や通りすがりのタイ人を相手に使うことができました。やはり現地の言葉は現地にひとと仲良くなる重要なツールだと感じました。
3	まったくゼロからのスタートでしたが、丁寧にゆっくり授業を進めてくださったので、なんとかついて行けたと思います。現地で屋台の人と話したり、タイ人の友人と簡単なタイ語で話したりするのが面白かったです。ただ、タイ語の声調をしっかりマスターするのは本当に難しく、最後のタイ語でのプレゼンはうまくいかなかったのもう少しじっくり練習すべきだったと思います。ちなみにタイ人の日本語でのプレゼンはかなり完成度が高かったです。
4	講師の方の教え方が丁寧で、わかりやすくよかったです。
5	全体的に良かったし、タイ語について十分学べたと思う。しかし、実際にタイ語で会話してみても、発音が悪くてあまり通じず、結局英語で話すことが多かった。CDなどを使ってもっと発音を良くしたかった。
6	興味があったタイ語を学ぶことができてよかった。先生は自分たちがタイにいるときに使うと思われるものを重点的に教えてくださったので、授業後にタイの学生と交流するときに実践することができた。また、質問すると非常に丁寧に教えてくださった。ひとつ残念だったのは日本とタイで教えてくれる先生が変わって、少しやり方が変わったことだ。変わるとどうしても比較してしまう。マヒドン大学側の方針や、先生たちの都合などもあるだろうが1人の先生にずっと学ぶ方が効率的に学べると感じた。
7	日本でのタイ語の授業では、まず、タイ語特有の5声をマスターすることから始めました。日本語にはないので、ここが一番苦労しました。全てを終えた今でも、完璧にマスターしているかと言われると自信がありません。それほど難しかったです。それから簡単な自己紹介や「これなに」「あれなに」表現など、日常生活で使える表現ばかりを学習しました。マヒドン大学の先生の教え方が上手く、何度も何度も発音練習を繰り返したので、耳から覚えていきました。マヒドン大学の授業では、先生は変わりましたが、だいたいの流れは変わらずに教えてくださったので、継続して学習することができました。タイ語を勉強した三週間、毎日の小テストや、節目節目の発表などを通して、タイ語を話せている！と実感できていくような日々でした。今回の授業では話すことと、聞き取り、文法だけの学習だったので、タイ語の文字も読めるようになってみたいと思いました。
8	先生がとても親切でわかりやすかったです。またタイ語を勉強したいという気持ちになりました。
9	日本で集中講義は1日4時間半あり、とても大変で集中できない時間がたくさんあった。せっかく日本にタイの学生が来ているのだから、少しは授業の中でも交流があったが、もっと増やしてもよいと思う。タイでの講義は1日3時間と日本での時間よりも時間は短かったが、慣れない生活の中で、放課後にタイの学生と交流し、課題やプレゼンテーションの準備をしなければならない状態では疲れがたまっており、とても長く感じ、集中することができなかった。日本での授業は発音のチェックをしっかりしてもらうことができ、放課後タイの学生とかわることで実践するという楽しさを感じながら受けることができた。生徒と生徒、生徒と先生の交流が多かったのがよかったと思う。タイでの講義は、あまりコミュニケーションが少なかったことと、後ろの方の席では、あまり声が聞こえなく、ホワイトボードの文字が見えにくく、特に声調記号が分かりづらかった。
10	長い時間続けての授業だったので、疲れることもあったが、「即実践につながる」というよい環境にあったため、しっかり取り組むことができたのではないと思う。タイ語の先生方は、連日の長い授業で疲れることもあったと思うのだが、根気よく丁寧にかつ朗らかに授業を行ってくれて（半分ぐらいの生徒が授業中に居眠りをしたりしていたときでさえ）非常に感謝している。タイ語は文法は簡単なのだが声調がとても難しく、短い言葉などなら覚えてきちんと発音できたのだが長い文章になるとあまりうまくいかなかった。授業の最後にタイ語で3分程度の発表をしたのだが、文は何となく書けるようになっていたものの、声調に関しては全然だった。発表もちゃんと伝わっていたのか疑問である。（タイの学生にきいたところ部分部分は分かったなどと言っていた）悔しかったのでこれからもタイ語の勉強を続けようと思っている。
11	日本で5日間、現地で2週間タイ語を学んだことでタイ語だけでなく、タイ語にまつわる様々な事柄を知ることができた。タイ語での自己紹介やプレゼンテーションは難しかったけれど、先生やマヒドン生にタイ語を覚えてもらう中で言語学習以外の話もできて、楽しかった。

12	授業は皆がはじめてということもあり、発音や基本表現といった基礎を中心に行われた。習う表現はタイで生活している中でよく使用するものばかりでとても助かった。言語を学ぶ上ではコツコツと続けることが一番重要であると私は考えるが、そのためのモチベーションとしてタイの学生たちとタイ語で話したいという気持ちを持ち続けられる環境であったことがとてもよかったと思う。ただ、後半になると疲れや寝不足で授業に集中できないことがあったので、反省しなければならない。また、最終プレゼンのためには表現が不足しており、タイの学生や先生に大いに手伝ってもらわなければならなかった。それでも時間が限られていることを考慮すればとても良い内容だったと思う。
13	タイ語は難しかったけど、先生方はいつも丁寧に教えてくださいました。学んだタイ語をすぐに使える環境にいたので、より実践的で有意義でした。今後もタイ語を勉強したいと思いました。
14	日常会話ですぐに使える表現が多く、タイの学生との会話やお店での注文で生かすことができたので、とても役立つ授業だった。テキストの分量はちょうど良く、教えてくれる先生もとても優しくかった。日本ではなかなか触れる機会が少ない言語なので、二週間タイ語を勉強することができて大変満足している。
15	タイ語の授業はそれを話す上での基礎知識や日常の会話に必要な語彙・文法を正しく理解する上で十分な分量であったと思う。特に日本での授業はまだタイ語を十分に理解していない我々にも解かりやすい内容であり、先生も親切に丁寧に教えてくれてやる気が出た。

Q5 Field Visitについて、下記の選択肢をつかって評価してください。



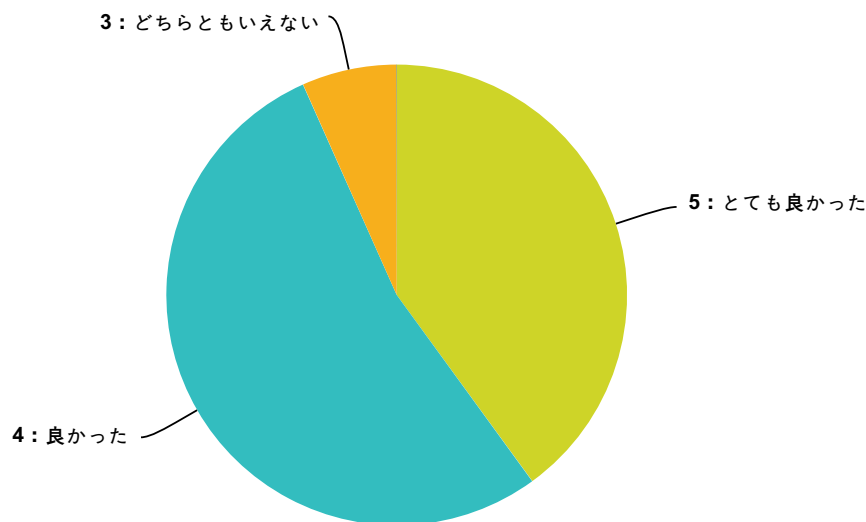
回答の選択肢	割合	回答数
5:とても良かった	26.67%	4
4:良かった	60.00%	9
3:どちらともいえない	6.67%	1
2:良くなかった	0.00%	0
1:全く良くなかった	6.67%	1
合計		15

Q6 Field Visitに関して、特に良かった場所、良くなかった場所など感想を聞かせてください

	回答内容
1	アンパワーの水上移動はとても楽しかったです。いろいろなところに移動してハス農園なども楽しかったです。よくなかった場所は特にありません。
2	似たような博物館が多く、あまり刺激的とは言えませんでした。
3	Klong Mahasawatが良かったです。ボートで川を移動し、様々な場所に寄りました。ハスの花や葉がたくさん見られるところで写真をとったり、手作りのお菓子を作ったり食べたり、トラクターに乗ったりして楽しみました。博物館もタイ人にガイドの翻訳をしてもらえていろいろと学べて良かったです。あとはみんな書いているんじゃないかと思いますが、バンコクとアユタヤに行きたかったです。
4	フローティングマーケットが新鮮で、特に印象的でした。似たようなミュージアムへの訪問が何回かあったので、訪問先を抜粋しても良いと思いました。
5	これに関してはバンコクに行けなかったことが残念としかいいようがない。行ってもここはどこなんだという場所ばかりなので、楽しかったかと聞かれれば楽しかったのだが、名前を上げて感想をいえるかというといえない。しいて言えば、運河で舟に乗ってハスの花を見に行ったときは、非常にタイらしさを感じた。どこかは分からないがこれがタイなんだろうと思った。博物館に行ったときは説明がわからなかったので学生に聞いてばかりいた。おかげでそこまでフレンドリーではなかった人とも仲良くなれたと思う。
6	特によかったのはtour of Klong MahasawatやThe Banyan Tree Templeだ。一つ目のツアーは船に乗って様々なところへ行った。川辺に住む人々の生活を見ることができたり、ハスの農園などでハスの花の折り方などを教えてもらったのが記憶に残っている。良くなかった場所というのはあまりないが、Amphawaを訪れた日の時間配分が気になった。水上マーケット以外の所では見学が終わってもゆっくりとしていたのに、最後に行った水上マーケットが広さのわりに1時間しか見る時間がなくあまり回れなかった。人が多いところにいる時間を少なくするためもあるのかもしれないが、少し残念だった。
7	Field Visitについて、今回はバンコクで爆発事件があったため、タイと言ったらこれ！というような有名な場所に行くことができませんでした。このことは、マヒドン大学の先生立だけでなく、学生までも申し訳なさそうに謝ってくれたり、残念そうにしていました。しかし、そのぶん連れて行ってもらった場所も十分に魅力のある所だったと感じています。特にアンパワーを訪れたときには、自然と共存する生き方やそれを支援していく活動など、旅行するだけでは見ることのできないようなものを多く見ることができて、良い経験になったと思います。しいて言うならば、地方の少しマイナーな観光地が多かったからかもしれませんが、外を歩く距離が長い場所がとても多く、疲れがたまった後半のField Visitでは、展示物を見るより、はやく涼しい場所に行って座りたいとしか考えられないときもありました。でも、それもタイの暑さを思い知るいい経験だったと感じています。
8	楽しかったのはKlong Mahasawat、勉強になったのは医学部の博物館、Amphawaは少し暇を持て余していました。マーケットを見る時間がもう少し欲しかったです。もらっていた予定表通りではなかったので戸惑いました。
9	バンコクにいけなく有名地にいけなかったことは残念であるが、全体としては楽しめた。訪問先自体に大きな魅力があったわけではないが、タイの学生が同行してくれたことにより、タイの文化を教えてもらったり、タイ語を英語に直してもらったりと、タイの生徒の能力に関心しながら、楽しくコミュニケーションをとり、学ぶことができた。また、プログラムに参加していない学生も一緒に同行してくれるなど、タイ人の人の好さと、いい意味での自由さを感じることができた。一番良かった場所はアンパワで、やはり観光地として有名どころが魅力的なものがたくさんあった。端人形の博物館や病院の歴史の博物館はタイの文化を知るという意味で必要なものであったかはわからなかった。タイでは有名なお坊さんやお医者さんかもしれないが、予備知識がないと覚えることもできず、理解することもできないためである。だからお寺でお参りの仕方を教えてもらったり、トラクターに乗ったりと、自分が何かしらの行動をするようなことが楽しかった。
10	Siriraj Medical Museumが今まで見たことがないような展示がたくさんあっておもしろかった。展示の構成としては、それまで未発達だったタイの医療をラーマ5世や他の人が切り開いていったというようなものだったが、中には西洋医学導入前のタイの医療（たくさんの薬やお産に関するもの、マッサージ、ヨガなど）の展示もあり、興味部かった。ただ、ガイドの人がタイ語しかはなせず、タイの学生や先生の翻訳を通して理解しなければならなかったため、うまくわからないところや説明がそもそも聞こえないところ、速くて追いつけないところなどがあったことが残念だった。
11	すべてのField Visitは楽しかった。特によかったのはMahasawatで、川下りや蓮の花の装飾体験、伝統的なお菓子作り、タイの車に乗ったことすべてが斬新で楽しかった。また、そこで食べた果物はすべておいしかった。

12	今回はバンコクでの事件の関係もあり、バンコク内の有名な寺院（例えばワットポーやエメラルド寺院）に行けなかったことは正直に言うともとても残念であった。しかし、その自分分だけでタイに行ったときにはおそらく行くことがないであろう場所にも行くことができたのはよかったと思う。私が行ってよかったともっとも思うのはアンパワーである。日本にいた時にタイの学生が水上マーケットの話をしてくれて興味がわいていたが、実際に行ってみてアンパワーの伝統に触れるとともに、今の現地の雰囲気を感じることもできた。バンコクではないものの、寺院にも行ってタイ式の参拝を実際に体験できたこともよかった。ただ、仏教に関することを学ぶ機会は少なめであったように感じた。マヒドン生徒の会話を通して少し教えてもらうことができたが、もう少し学べる機会がほしかった。
13	全体的によかったです。バンコクに行けなかったのは残念でしたが、また次の機会に行きたいです。
14	バンコクには行くことができなかったけれど、逆に普段の旅行では行かないような場所へ行ったので、タイの違った様子を見ることができたと思う。とくにロータスファームや水上マーケットなどの場所はタイの庶民の生活が垣間見えて、とても興味深いものだった。
15	今回行ったところはどこも良かったと思う。特に良かったのはアンパワーへのField Visit だった。アンパワーではタイの仏教寺院を訪問した。私はそうした寺院に興味があったので嬉しかった。タイの寺院は参拝の時の服装や方式などの規則がこと細かく決められており、それを実際にやり学べる点良かったと思う。寺社見学については来年もやってほしい。

Q7 Field Visit以外の課外活動（例えば料理やダンスなど）について、以下の選択肢をつかって評価してください。

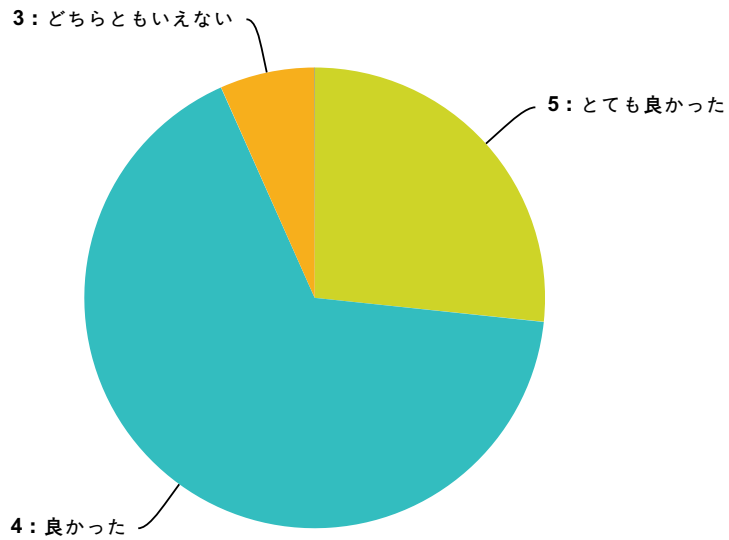


回答の選択肢	割合	回答数
5: とても良かった	40.00%	6
4: 良かった	53.33%	8
3: どちらともいえない	6.67%	1
2: 良くなかった	0.00%	0
1: 全く良くなかった	0.00%	0
合計		15

Q8 課外活動に関して、感想を聞かせてください。

	回答内容
1	ダンスや料理など普段全く触れないようなことを学ぶ事は旅行や留学等で得られない貴重な体験でありとても身になりました。
2	タイのダンスやボクシングではタイ人なりのこだわりがみえて面白かったです。
3	ムエタイ体験が面白かったです。思いっきり蹴るのがストレス発散になりました。他にも受け身やポーズなども个性的で様々な技がありました。料理はとりあえず辛いものは全く食べられませんでした。甘いものも甘すぎでした。甘くなく辛いものは全体的においしかったです。
4	ムエタイやタイの伝統的なダンスを楽しむことができました。料理はもう少し自分たちで調理に挑戦したかったです。
5	私は飽き性なのでよく飽きていたし、説明がタイ語から英語に翻訳されるため、あまり理解できないことがあったが、それでも学ぶことに意味はあったと思う。これも短期留学の強みののだろうか。
6	ダンスでは伝統的な衣装を着ることができてよかった。着たことがないというタイの学生もいて、貴重な経験をさせていただいたと感じている。タイボクシングは暴力的なイメージで体験するまではあまり興味を持っていなかったが、実際にしてみると予想以上に楽しかった。もう一度してみたい。お菓子作りではほとんど準備されていて、ルークチュップの成形以外は作り方を見学するだけだったのが残念だった。もう少し一緒にできればよかったと感じた。最終日の料理作りは本格的で、一緒に作ることができて感動した。学校の前の屋台で食べていたものを作ったりしたので非常に興味深かった。
7	課外活動について特に印象に残っているのはタイの伝統的なお菓子作りの体験をしたことと、タイボクシングの体験をしたことです。伝統的なお菓子作りの体験では、教えてくださる先生がほとんどの工程をしてくれて、私達はまるで三分クッキングを見ているようでしたが、ルークチュップの最後の形をつくる工程では、本来のルークチュップは果物の形をしているのですが、それを作ったのはみな初めの一個くらいで、あとは、みんな創作活動に入りました。マヒドン大学の学生とがやがや騒ぎながら作れたのがとても楽しかったです。タイボクシングの授業では簡単な型から習い、二人一組で技を掛け合ったり、先生相手にパンチングしたりしました。思っていたより本格的で、私は体を動かすのが好きなのでとても楽しめました。すごく疲れたので、これはダイエットの効果もあるなど感じました。
8	ダンスは説明の内容が詳しくてよかったです。どれもタイの文化を実際に体験して学ぶことができてました。
9	ムエタイは足が痛くなったが楽しかった。ダンスも少し難しいのがちょうどよく楽しくできたとし、衣装をきれたのもよかった。お菓子作りは、アートのような感じであり、芸術的活動が好きではない私にとっては楽しめなかったが、それは運動が嫌いな人がムエタイを嫌がるのと同様なので、いい課外活動内容ではあると思った。シェフと料理を作るのも楽しかった。トムヤムクンを作りたいかったのだが、煮込む料理は時間が必要で多い人数ができなくてできなかったのが残念である。お菓子作りと料理を同一の課外活動にすることで、一つブースが増え、人が余ることをさげられることや、もう一つ何かしらの文化体験ができるようになるのではと思った。
10	踊り・ムエタイ・料理など様々な分野の体験ができておもしろかった。とくに、私はムエタイが楽しかった。講師の先生が、スピーディーかつ陽気に説明、指導してくださり、全く武術や格闘技などの経験がなかった私でも、蹴ったり殴ったり実践的な動きをすることができた。体をうまく使うとこんなこともできるのかと感激した。タイダンスについては、長い期間練習しないとできないもので、うまくできなかった。せっかく教えていただいたのに残念だった。それから、タイの伝統衣装を着たのだが、以前の私（あまり聞き分けがよくない）なら断固拒否しただろうなという感じだった。（なんてったってひらひらのふわふわなので）
11	先生からタイの文化を直に学ぶことができてとてもいい経験になった。ムエタイはテレビやインターネットで見ることができるので楽しみたいと思う。
12	課外活動ではタイ料理、タイダンス、ムエタイの経験をさせてもらった。タイ料理は日本でグリーンカレーを、タイではお菓子とシェフに教わりながら様々な料理を作った。グリーンカレーとお菓子については簡単にできる作業での体験であった。それに対してフェアウェルパーティー前の最後のクッキングでは、パッタイ、タイチャーハン、ソムタムなどタイに来てから食したものの多くを作る機会を与えてもらって、タイ料理をより身近に感じることができたと思う。タイダンスとムエタイに関しては、やり方等を説明してもらいながら実際にやってみるという形式であった。大いに楽しめたものの、特にタイダンスに関しては時間不足を感じた。4種類の振り付けを教わったが、それを身に付ける間もなく通して終わるという感じだったので、もう少し時間を増やすか振り付けをしぼるかするとよかったと思う。タイ語の授業だけにとどまらず、こういった文化体験の時間を多くとってもらえたことはとてもよかった。
13	最後のThai cookingで、トムヤムクン・パッタイ・カウバット・ソムタムなどをつくったのはとても楽しかった。ムエタイの体験では久しぶりに動いてちょっと疲れしました。
14	タイボクシング、タイダンスでは専門の先生が通訳を介しながら丁寧に指導をしてくださったおかげで、拙い動きでありながらも楽しむことができた。また、最終日のクッキングクラスも同様にシェフがひとつひとつの食材を説明しながら教えてくださったので、タイの食に関する知識が深まったと思う。
15	課外授業で特にいいと思ったのは料理教室である。揚げ餃子やソムタム作り、果物や野菜の飾り切りなどを実際にやってみてとても面白かった。今後の生活でも役立つそうなので良かった。あとムエタイの授業も面白かった。インストラクターの方が丁寧に解かりやすく教えてくれたので本当に良かった。なおタイのダンスに関しては少々物足りない感じがかった。

Q9 プログラム以外でのタイの生活や寮での生活について、
下記の選択肢をつかって評価してください。



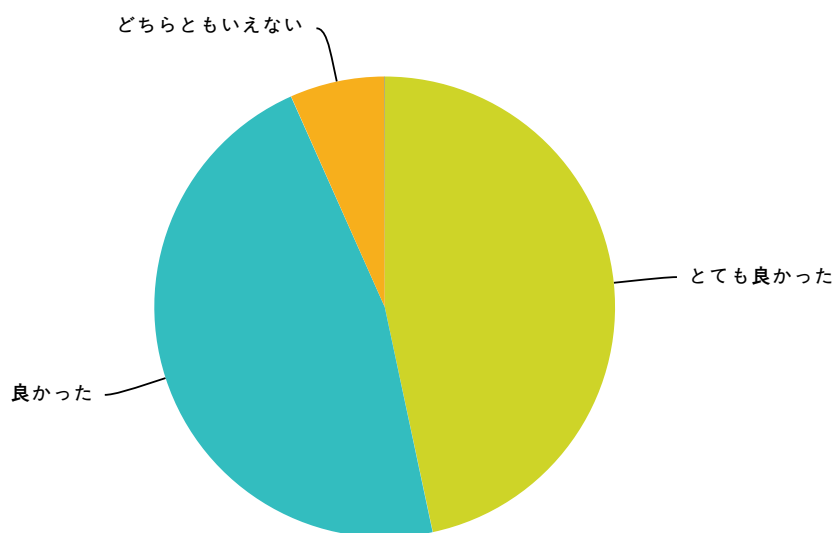
回答の選択肢	割合	回答数
5:とても良かった	26.67%	4
4:良かった	66.67%	10
3:どちらともいえない	6.67%	1
2:良くなかった	0.00%	0
1:全く良くなかった	0.00%	0
合計		15

Q10 プログラム外でのタイの生活や寮での生活に関して、感想を聞かせてください。

	回答内容
1	寮にはお札が貼ってある部屋やシャワーで湯が出ない部屋、冷蔵庫のない部屋などありましたが、私自身次第に慣れたので別に気にしなくなりました。
2	多くのタイ人の友人ができ、毎日楽しかったです。
3	プログラム外では基本的にタイ人がいろいろお世話してくれた。どこでもいきたいところに連れて行ってくれた。1週間もいれば、なんでもやってくれることに飽き始めて、自分たちでいろいろと行動してみた。それもまた刺激的で面白かった。タイ人の別れの演出は泣けた。個人的に寮生活そのものは面白かった。毎日いろいろな友達と話せて楽しかった。相部屋も2週間くらいであれば苦ではなかった。wifiが繋がらないことと、シャワー、トイレが日本のそれと比べるとぐっとクオリティーが落ちることが予期していたものの、残念であった。自分たちの部屋はお湯が出たのでまだ良かったが、水しか出ない部屋もあった。あとはたくさん蚊にさされた。
4	所々困った点はあったけど、タイの先生や友達に相談すると大体解決できました。
5	屋台はハエが飛んでいたり水などの衛生面が気になった。それ以外は辛くないで、甘くないでといえば美味しいものが買えたので楽しかった。今でもタイ料理が慕わしい。一番タイで楽しかった場所が屋台だと思う。寮はおそらく参加者の中で一番いい部屋だと思われる部屋だったこともあり、快適に過ごすことができた。ただ寮で使うカードが4人分使えなくなってしまう、それを交換する際に寮の人やマヒドンの学生で英語を話せる人が少なくて苦労した。出来るならタイでのマナーを事前に知ってから行きたかった。トイレや寺でのマナーがわからなかったが、タイの友人に聞きづらかったり、聞いても理解しがたかったからだ。
6	プログラム外でもずっとタイの学生がサポートしてくれたおかげで安心して過ごすことができた。近くのお店に晩ご飯に連れていってくれたり、土日もプランを作ってくれて楽しく過ごすことができた。寮の設備は非常にきれいで十分だった。ただ男子の部屋は清掃があったが女子の部屋はなかったため掃除をする必要があった。しかしこれについては清掃して下さることが驚きだったので全く問題なかった。またタイの学生や先生が寮について不備がないかと常に気にかけて下さっていたので何かあれば相談することができた。
7	タイでの生活に関して、やはり衛生状態が日本より悪いということ是否めなかったものの、大きな不自由をすることなく毎日過ごすことができました。一番衝撃だったのはトイレの使い方で、個室に紙が置いていない所が多かったり、紙を便器に流してはいけないかったり、隣に置いてあるバケツから水を汲んでトイレを流すところもあり、日本のトイレの綺麗さを実感しました。これも慣れるとなんてことないのですが、日本に帰ってくるとやはり、日本のトイレはいいなあと感じました。食事について、初めてカフェテリアでご飯を食べたとき、何が美味しいのか分からなかったのですが、タイ人の人のおすすめを食べたらほんとうに辛くてつらくて、ここでやっていたら不安になりましたが、次の日には自分で辛くなさそうなものをじっくり選んだり、他の人に聞いたりして自分が食べれる美味しいタイ料理を探すことに成功しました。
8	とくに困ったことはありませんでした。掃除がしたかったのですが掃除道具がなかったのでできませんでした。料理は辛い物は本当に辛かったです。そうでないものも沢山あっておいしかったです。
9	タイの生徒が親身にかかわってくれたのがうれしかったが、少し自力で公共交通機関を使ったり、タクシーを呼んだり、屋台で注文したりとタイ語を実践的に使う場を得、自分たちで解決する能力を養うようなことも行うこともあった。タイの生徒が車を持っていることはとても便利で、行きたい場所にすぐに連れて行ってくれたことにはとても感謝している。ただ立地的に大学前の屋台街やショッピングモールぐらいにしか行けなかったのは残念である。寮には、冷蔵庫がない部屋、クーラーがない部屋、お湯が出ない部屋、ペランダがない部屋、お札が張ってある部屋など完璧な部屋がほぼなかったことが残念だった。wifiも部屋によってつながるかが分かれており、外国から来ている人に用意する部屋には必ずwifiが届くようにするべきだと感じた。パンフレットには部屋ではwifiが繋がらないと書いてあったので、今回はポケットwifiを用意したのだが、もし部屋でつながるのであればそれは無駄な出費になるわけであり、部屋によってつながるかが変わるの是不平等であると思った。また、自分の部屋は大雨が降った後には床が水浸しになることが分かった。部屋に慣れた後に発覚したので、移動はしなかったが、生活しづらかった。
10	タイの学生は非常によくしてくれた。タイ語も少しずつ分かる用になったためあまり困ったことはなかった。ただ、料理がほとんどタイ語で書かれているため、日本人だけで出かけた時は少し手間取ったりした。
11	大学の近くには数多くの屋台やショッピングモールがあり、タイを楽しむことができる環境が整っていたのでとても満足している。寮の部屋については、シャワーのお湯が出なかったことが少し残念だった。冷蔵庫は初め設置されていなかったが、次の日には部屋の前においてくれていたから助かった。

12	<p>プログラム外の生活の点では、毎日のようにマヒドンの学生たちと一緒に食事をとったり、デパートに連れて行ってもらったりして本当に楽しめた。彼らの助けなしではこんなに楽しく生活できなかっただろうと思う。それと同時に夜遅くまで付き添ってくれることも多々あったので、授業が毎日あって忙しいマヒドンの学生たちに申し訳なさも感じた。あとは自分の下調べ不足で、どこに行きたいと尋ねられても漠然とした回答しかできず、困らせることにもなってしまったと思う。もっとやりたいことをはっきりと決めておくべきだった。寮での生活は、最初の数日はハブニングがいくつかおこった。例えば、私たちの部屋では冷蔵庫がなかったが、その旨を伝えると対応してくれた。対応の早さには感謝したいと思う。マヒドンの学生が日本に来た時には寮は大学から結構離れていて苦勞をかけたと思うが、私たちの寮は大学から近く、コンビニ等も近くにあったので助かった。</p>
13	<p>寮はほとんど不自由なく過ごせました。電気を一度に何個も使ったためにブレーカーを何度か落としてしまいました。そのトラブルもすぐに解決してもらいましたので、良かったです。</p>
14	<p>私の泊まった部屋は設備が結構充実していたと思う。ただWi-fiの接続状況はあまり良くなく、シャワーを浴びている時に度々ブレーカーが落ちるトラブルがあった。またアリの多かった。また共同で使う洗濯機は20パーツ・25パーツの両者があるがどちらも5パーツ硬質しか受け付けられないので注意。なおトイレは日本の方式とは異なっており、トイレットペーパーとシャワーを使ってやることとなる。この時に使用済みの紙はトイレに流さず便器横のボックスに捨てるので注意（なおCONDO Aの部屋のトイレにはボックスはないので注意）。大学周辺には徒歩圏内にスーパーやコンビニがあり飲食物はそこでまかなえるし、飲食店も多くどの店も安くおいしい店が多い。ただ飲食店の中には英語が通じない店があるのでなるべくタイ人と一緒に行った方が良い。また飲食店で供される飲料水は有料なので支払時に注意。留学時期はタイは気温が高く日本にいるとき以上に水分補給に気を使った方が良い。また蚊や蛇などの虫が多く、それらの虫を媒介して伝染する病気を防止するためにも虫除けを買った方が良い。なお虫除けは現地製で効果が高いものがあるのでタイ人学生などにアドバイスを受けて買った方が良い。</p>
15	<p>タイ人の学生にはほぼ毎日食事や買い物に連れて行ってもらい、親睦を深めることができたと思います。授業があつて忙しいのにも関わらず、積極的にサポートをしてもらったので本当に感謝しています。男子寮の設備には若干不満がありました。Wi-Fiのつながりが悪く、プレゼンテーションの準備が思うように進まなかったことが挙げられます。さらに、私が最初に案内された部屋のエアコンが壊れていたり、冷蔵庫のない部屋、シャワーのお湯が出ない部屋、お札が張られている部屋など不備のある部屋が多かったように思えます。</p>

Q11 派遣プログラムの実施時期・期間について、
下記の選択肢をつかって評価してください。

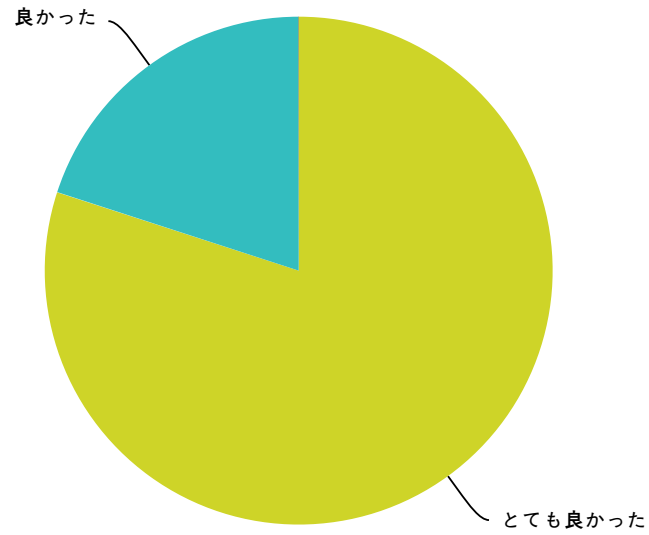


回答の選択肢		回答数
とても良かった	46.67%	7
良かった	46.67%	7
どちらともいえない	6.67%	1
良くなかった	0.00%	0
全く良くなかった	0.00%	0
合計		15

Q12 派遣プログラムの実施時期・期間に関して、感想を聞かせてください。

	回答内容
1	二週間または三週間くらいがベストだと思いました。タイのサラヤではあまり行くともなくなってきた印象を受けていたので、毎日の楽しみを求める私としてはこれくらいの期間がいいかと思いました。
2	2週間という期間はちょうどタイに飽き始めた時期でちょうどよかったです。
3	実施時期はタイでの雨季であったが、運が良かったからかもしれないがほとんど雨に行動を制限されることは無かった。期間として2週間はちょうど良かったと思う。フリーデイがあると2日くらいあるのもっと余裕が生まれて良かったかもしれない。
4	ちょうど良かったと思います。
5	マヒドン大学で卒業式や運動会が行われる前の時期ということもあり、大学全体が活気のある時期だったので楽しかった。ただタイの学生が日本の暑さにやられて疲れ切っているのを見ると夏以外に来た方がいいのかなと思った。
6	集中講義はお盆明けから始まり、ちょうど良かったと思う。期間も短すぎず長すぎずちょうど良かった。バンコクに行けるならもう少し長い方が嬉しい。しかし日本人としてはよい時期、期間だったが、タイの学生はサポートしてくれていた期間は授業も始まっていたので大変そうだと感じた。
7	派遣プログラムの実施時期については、お盆明けの夏休み中ということで、とてもいい時期だったと感じます。これより遅いと、後期の準備で忙しくなりますし、これより早いと、テスト勉強と重なることがあるかもしれないからです。期間についても私は二週間でよかったと思います。終わったときはとてもさみしくて帰りたくないと感じましたが、日本に帰ってくると心から落ち着けた感じがして、タイではずっと気を張っていたことに気が付きました。またこれ以上長いと、経済的な理由で参加できなかったかもしれません。
8	タイでは4月が一番暑いらしく、8月、9月もそれなりに暑いと思いますが、屋外に長時間出ても耐えられました。雨季ということでしたが、実際に雨に出くわしたのは3、4回ほどで夕方が多かったです。
9	期間については完璧であったと思う。時期は1週間遅いとよいとおもった。タイの学生が日本に来ている期間はまだテストがあっている学科もあり参加できなかつたり、お盆にかぶっていたりするからである。逆にリベラルアーツの人は日本にいる間に授業が始まっており、1週間休まなくてはならないという状況はかわいそうであった。つまり、どちらのことも考えるとベストな期間であったと思う。
10	爆発があった直後で行くところが制限されていた。(わたしはそれでも楽しんだのだが、規制されていること自体がいつもあって、嫌なかんじだった) 期間については良いぐらいだと思う。
11	前期が終わってすぐというとても良いタイミングだった。日本でのマヒドン生受け入れとタイに行く期間が重なって少し忙しかったけれど、今ではそれでよかったと思っている。最後にマヒドン生は授業があるにもかかわらずサポートしてくれたのはうれしかった反面大変そうでした。
12	実施時期については、九州大学の学生にとってはテストがちょうど終わったあたりからチューターが始まるということで最高の時期だと言えると思う。しかし、マヒドン大学の学生にとっては私たちがタイに滞在中の期間にはすでに大学が始まっており、とても忙しい中私たちのサポートをしてもらうことになった。ただ、大学間で休みの時期が異なるのは仕方のないことである。実施期間については、終わってみると短かった、もっと長く居たかったという思いももちろんあるが、短期間であるからこそ集中して質の高い学びや体験ができたと思うし、自分の予定と合わせやすかったのでよかったと思う。
13	2週間はとても短く感じましたが、やりたかったことはほとんど出来たし、食べたいものもほとんど食べることができました。2週間はちょうど良かったと感じています。
14	プログラムの実施時期は九大では夏季休業中にあつたので参加しやすく良かったと思う。マヒドン大学の方でも休業中に日本に来ることになっていたのでマヒドン大学の学生にとっても良かったと思う。ただ日本での最初の1週間(8/9~8/16)は盆の時期にあたり九大生協の店舗も含め閉店している店が多く、その分やや不自由があったと思われる。
15	二週間という期間は短すぎず長すぎずちょうど良いし、時期も問題ないと思います。ただ、マヒドン大学の学生が来日する時期にお盆休みにあたってしまうのは少し気の毒だなと感じました。

Q13 集中講義を受講した上で派遣プログラムに参加したことについて、
以下の選択肢をつかって評価してください。



回答の選択肢		回答数
とても良かった	80.00%	12
良かった	20.00%	3
どちらともいえない	0.00%	0
良くなかった	0.00%	0
全く良くなかった	0.00%	0
合計		15

Q14 集中講義を受講した上で派遣プログラムに参加したとについて、感想を聞かせてください

	回答数
1	集中講義を受けることでタイ人とのコミュニケーションとして利用できたことは大きかったです。英語を話すよりタイ語を話した方が親密度も上がったように感じました。
2	基礎的なタイ語をあらかじめ学んで行くことで店員やタイの学生とのコミュニケーションに不安なく望むことができました。
3	自己紹介ができる状態でタイに行ったことが良かったと思う。チューターではないマヒドン大生にタイ語で自己紹介するのはうけがよかった。また、集中講義で先に受講していたからこそ、タイでのタイ語の授業もスムーズに進んだと思う。
4	事前にタイの言語や文化を学べたり、タイの留学生と交流を持つ機会があった事で、タイでの二週間をより深みのあるものにすることができました。
5	連日の集中講義の後派遣プログラムに参加するのは体力的にも厳しいものがあったが、現地言葉をしっかり学んでから現地に行くというのはなかなか出来ることではないし、現地へかける思いというのも変わってくると思う。ただもう少し復習ができる日程であつたらよかった。
6	自分で学んだ以上にタイについての予備知識を持つことができたのでよかった。タイ語を学んで行ったことで、タイに着いてからの会話がはずんだ。また、一緒に行くメンバーとも集中講義の間に少し仲良くなれた。
7	集中講義を受講した上で派遣プログラムに参加したことは、二週間の派遣プログラムをより充実したものにすることで、とてもよかったと思います。集中講義で、ある程度タイ語がどのような感じの言語であるのかをつかみ、自己紹介は空で言えるようになっていたことで、現地の人にタイ語で自己紹介や簡単な会話ができたので、仲良くなるきっかけがつかめたと思います。また、タイ料理の授業でタイの料理の辛さについて覚悟できたのがよかったと思います。
8	かんたんな会話ができたのでよかった。文章ではなく単語だけでも意思疎通はできるので、講義で単語を覚えていて役に立った。
9	日本でタイ語を学んでいったのはとても役にたった。講義で習ったことを交流の中で使うだけで話が盛り上がるので、コミュニケーションツールとして英語以外で現地の言葉を話す大切さを感じることができた。
10	タイ語での交流やタイについて知れるというところで、とてもよかった。
11	集中講義ではタイの概要、文化、言語について教わり、プログラムに参加するメンバーとも仲良くなれたのでとても有意義なものだったと思う。
12	タイ語は英語と異なり全く分からない状態であつたので、集中講義の意義はとても大きかった。集中講義で習った表現はどれもタイに行ってから使えるものばかりであつた。また、派遣前なかなかタイについて自分で調べる時間が持てなかったが、タイから来た先生がタイの食事やマヒドン大学の近くにあるものなど様々なことについて教えてもらったので、タイに行った際の参考になった。さらに、留学の際に一緒に過ごす日本人との交流も図れたこともよかったと思う。集中講義のおかげで留学をより楽しく学べるものになったと思う。
13	タイ語を事前に少し学んでから現地に向かうことで、すぐに実践できるし、話すことでさらにタイ語を勉強したいという意欲が湧いてきました。集中講義とのセットのプログラムであつたので僕はこの点を魅力的に感じて参加を決めました。
14	日本での集中講義はタイ語を勉強する上で、その基礎的事項を予め押さえるためにも必要であつたと思う。タイで本格的に勉強する前の準備期間として十分な時間であつたと思う。
15	事前に少し勉強しておくことで、タイに行ってから学ぶタイ語をよりスムーズに習得することができたのだと思います。また、簡単な会話くらいは日本で学んでおけば、タイですぐに使うことができるので、事前の集中講義を受けることは必要だと感じました。

Q15 日常生活や本プログラムに参加して考えたこと、改善事項や要望事項などを書いてください。

	回答数
1	非英語圏の大学生が非英語圏の大学に訪れたのですが、あちらの大学生と英語能力の差を感じました。様々な方面で教養を深めたいと思いました。改善事項、要望事項に関しては特にありません。
2	英語の重要性を痛感しました。
3	タイの学生と関わるのは面白かったです。英語でもコミュニケーションもままなりませんでした、だいぶん笑ったと思います。タイ人のチューターは女の子ばかりで最初は大丈夫かな、と心配になりましたが、全然大丈夫でした。タイ人は笑いのつぼが浅く、フレンドリーなのですぐに笑ってくれます。また、2週間のタイでの生活は寮生活にはじまり、刺激的なことが多かったです。英語力の必要性は痛感しました。自分が志望している職業は英語が必要であり、タイ人との交流は能動的に英語を学習しようと思うきっかけにもなりました。心残りは最後のタイ語でのプレゼンテーションです。タイ人の友人は録音まで協力してくれたのにばっちり仕上げるのができませんでした。来年行く人ははじめから最後にタイ語でのプレゼンテーションがあることを意識して、しっかり仕上げて欲しいと思います。よき先生、スタッフ、友人に恵まれ、本当に充実したプログラムでした。できるだけ早く再びタイに行きたいです。
4	言葉が通じにくくても、一番大切なことは伝えようとする姿勢だと、改めて感じました。
5	全体の感想でもすでに述べたが、英語を学ぶことの重要性を感じた。どうしても日本人とは日本語で会話してしまい、タイの友人に疎外感を感じさせてしまうことが多かったように思われる。ずっと英語で冗談を連発する先輩のようになりたいと思った。マヒドン大学の参加者の男女比率も半々だったらもう少しスムーズにいったとおもう。チューターの際に少人数で大勢の女子の買い物に対応するのは難しいと感じた。ただ女子の集団の特有のパワーがすごかったのでそれはそれで楽しかった。撮影大会は楽しかった。今年はバンコクに行けなかったということでマヒドン大学の人も対応に困ったと思うし、日本人側も非常に残念だったが、これもまたタイに行くきっかけになるだろうと思う。
6	改善事項はマヒドン大学の学生が日本に来た際にもっとサポートすべきだということだ。マヒドン大学の学生はほぼ毎日授業以外ついてくれていてありがたかった。要望事項としてはプログラム前の説明会が何度もバラバラであったことと、直前になって日程の連絡が来たので予定を合わせるのに苦労したので、早めに日程の連絡をしてほしいのと説明会は長くてもいいのでまとめてほしいということだ。
7	このプログラムに参加して、一番思ったことは自分の英語力の乏しさです。「これ英語でなんていうんだっけ」と会話の最中にも詰まってしまい、スムーズにコミュニケーションをとることができないという状況に何度も陥りました。それに比べてタイの学生の英語は、こちらが聞き取ることでできないほど流暢で、申し訳ない気持ちになったし、もっと英語ができていたら、もっと仲良くなれたのかもしれないと悔しい気持ちになりました。これからもっと話せるようになりたいです。要望を一つ言うと、二週間寮で生活する上に置いて掃除道具がそばにないことで、うっかり汚してしまったときに困りました。同じ寮の学生に頼んで貸してもらえましたが、すぐ手元にあるといいなと感じました。
8	英語のレベルが違った。もっと英語を聞き取り話す能力を伸ばしたいと思った。
9	とてもいい経験ができ、思い出ができた。学校としてはバンコクに行くのは禁止にしても、個人でバンコクに行くことは許可してもよかったのではと感じた。そうすると、海外に来てまで、同じショッピングモールに何回も行くことはなかったと思う。あと、行きと帰りの便が拘束されているのが残念だった。MUICの生徒は何人もそのまま日本に残っている人がいるし、まだまだ夏休みが続く私たちに4週間で培ったタイの文化を自力で使う場を与えてくれてよかったと思う。大学生はお金がないので、海外に行くのは簡単なことではなく、ビザの範囲内は滞在させてほしい。または奨学金を受けていない人にとっては、完璧に自腹で航空券を払っているわけなので、自由にしてほしい。あとは奨学金を受給できる人が中途半端に多く、一部の本当に金銭的に困難な人を選ぶか、全員選ぶなどしてほしい。難しい問題であることは分かっているが、ほぼ無料で行っている人とお金を払っている人の留学に対するとらえ方の違いを感じ、せめて過半数以下に受給者を抑えることが必要でないのかと思った。
10	もっと英語力をつけようと決意した。可能であれば、参加する学生の男女比などについても考慮してほしい。
11	文化の違いと物事を考える際の背景の違いの大きさを感じた。一国の学生たちと接しただけでここまで新たな考え方を知ることになるとは思ってもいなかった。だから、もっといろんな国に行って新しいことを知りたいと思った。できるだけ集中講義とstudy tripがかぶらないようにしてほしいことと、個人的に福岡に来て半年もたっていない身なので、福岡のことを知る時間もあればうれしい。

12	<p>このプログラムに参加してタイのことを知ることはもちろん、日本についてとても考えさせられた。日本はよくおもてなしの国であると言われるが、私の実感としてはタイの人のほうが親切で気配りもできるという印象だった。もちろん大学内を中心に過ごしていたこともあるかもしれないが、食事の際に文字が読めなくて何かわからなかったときにそれについて英語で詳しく説明してくれたり、道がわからなかったときに尋ねると忙しそうにしていたにもかかわらずわざわざ連れて行ってくれたりと本当に助かった。私がチューターをしていた時にはマヒドンの学生の素朴な質問になかなか答えられず、気配りも不十分だったと感じた。私もマヒドンの人たちがしてくれたようなおもてなしや気配りができるようになりたいと思った。改善事項としては留学の際の注意点やチューター業務の説明会などをもう少し早い時期に行ってもらいたかった。マヒドンの学生が日本に来た初日に福岡の案内などをしたわけだが、この時に日本側の学生で初めて会うという人や名前分からない人が多くて、一緒にいるのにだれかわからないこともあって、それはあまりよくないと感じた。また、お寺でのドレスコードなどは自分で調べていなかったことも悪いが、伝えられたのが集中講義が始まった後だと準備が本当にギリギリになってしまい大変だった。</p>
13	<p>自分の知らない世界・文化に触れることのドキドキ感とワクワク感、そして終えたときの達成感は何ともいえないものでした。これからの日常生活でも新しいことに積極的に挑戦していく気持ちを忘れないで過ごしていきたいです。</p>
14	<p>本プログラムでは日本とは異なるタイ独自の文化・考え方に直に触れて相手方の文化を理解尊重するいい機会であったと思うが、それとともに今まで自分が当たり前だと思っていた自分の国の文化や考えについてその良さを再認識するいい機会でもあったと思う。つまりタイ人・日本人とはまた異なる「第3の目線」で文化を認識できたということだ。それは自分が留学経験で本当に得たかったものの一つであり、そのおかげでそれぞれの文化はそれぞれのしっかりした構造を持っているのだと認識することができた。またこのプログラムでは海外という日本の常識が通用しない環境に身を置いて10日以上生活することにより現実の事態を直視し適切に対処するノウハウを学べたと思う。日本にいる間は慣れている日本人のルールに乗っ取り行動すればよかったが、今回のタイのように海外ではそれは一旦捨てて新たに向こうのルールを汲み取り実行しなくてはならない。もちろんそれは簡単なことではない。試行錯誤を繰り返しつつもくじけずに頑張っていかななくてはならない。海外で生活したり外国人と付き合う上でこれは大切なことだと感じた。</p>
15	<p>寮の設備については改善の余地があると感じました。</p>